

第6回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 佐藤薫郷）の審査を経て平成16年2月24日（火）に開催された第59回理事会において慎重審議の結果、大西忠一君、花崎昌幸君、佐武 誠君の3名の授賞を決定、社団法人軽金属学会第106回春期大会第1日目の5月29日（土）に東北大学において表彰式を挙行了た。

受賞者 大西忠一 君 大阪府立大学大学院助教授 昭和19年11月21日（59才）

受賞理由

大西忠一君は、永年にわたってアルミニウムを中心とした材料学の教育・研究に努め、数多くの論文発表を行ってきた。特に、アルミニウム合金の水素脆性と応力腐食割れに関わる研究では先導的な業績を上げ、従来省みられなかった水素の果たす役割の重要性を認識させ、それらの機構解明に大きく貢献した。これらの研究業績により、幾度も軽金属学会論文賞を受賞している。さらに、本学会の評議員、編集委員、材料物性部会長をはじめ、大会運営委員など数々の委員を務めて、学会運営に尽くすとともに学会の発展に大きく貢献してきた。また、日本アルミニウム協会の各種委員会委員長や委員を通して、軽金属学会と日本アルミニウム協会との連携を図る中心的役割を果たした。近年では、廃棄物アルミニウムドロスの処理対策とリサイクル問題に取り組む、世界初となるドロスのJIS規格制定に尽力するなど、環境問題の学問的、技術的解決に大きな役割を果たしてきた。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第6回軽金属学会功労賞を贈る。



受賞者 花崎昌幸 君 日本軽金属株式会社研究員 昭和19年2月23日（59才）

受賞理由

花崎昌幸君は軽金属学会の表面処理部会の委員として昭和49年以来学会活動に参加してきた。永年にわたりアルミニウム材料の実使用環境下での各種の腐食事例を収集し、それらの現象を過酷環境下での腐食促進試験を通して実証的、理論的に原因の解明を進めるとともに、防食法の開発を精力的に行ってきた。対象とした腐食事例は、建材、景観製品から、船、自動車まで、アルミニウムがここ30年間用途開発を進めてきたすべての分野に及んでいる。防食法の開発では、表面処理による方法を中心に研究を行うとともに、適切な評価方法の開発をしてきた。

これらの活動を学会活動の中で関係各社の実務者とともに進めてきたことにより業界の発展に多大な貢献をしてきた。このことは、学会発表の多くが各社の実務者との共同研究となっていることから明らかである。

また、平成14年（2002年）4月に発足した学会の表面処理部会では、これらの豊富な経験を活かしてアドバイザーとして活躍している。

以上のように、同人は、永年にわたって軽金属学会の運営ならびに活動に様々な形で参画して、軽金属学会の発展に大きな貢献をした。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第6回軽金属学会功労賞を贈る。



受賞者 佐武 誠 君 北陸アルミニウム株式会社顧問 昭和13年10月21日（65才）

受賞理由

佐武 誠君は、北陸アルミニウム(株)で30年余にわたって一貫してアルミニウム合金の鋳造による家庭製品、建築材料、インテリア製品および工業用部品の製造技術に関する研究開発に携わるとともに、製品の改善、品質向上ならびに生産技術の指導と統括に関連する職務に従事してきた。こうした活動を通じて社内の技術開発および後継者の育成に多大な功績を上げた。一方、1984年から2001年の間、約20年にわたって軽金属学会北陸支部の幹事として、支部行事の運営や企画に積極的に携わり、支部運営の効率化に多大の寄与をした。さらに若手技術者の育成のための研究発表会の開催や支部会員の相互交流企画の立案、毎年の見学会の実行等を行い支部の活性化と発展に尽力した。その功績から2001年に北陸支部功績賞を授与されている。

また、その間に3回の全国大会の実行委員も務める等、永年にわたり本会の発展に貢献した。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第6回軽金属学会功労賞を贈る。

